

## そよかぜ診療所での研修を終えて

神戸大学医学部附属病院 研修医 2年目

寶官 玲奈

7月の1ヶ月、そよかぜ診療所・はるかぜ診療所で地域研修させていただきました。実を言うと地域研修とはどのようなものか想像もせずを選択していました。また、朝来市を訪れるのは初めてであり、知らない地域であることや緑しかないこの土地に一人で過ごすことにすごく不安もありました。

研修は訪問診療に加えて、外来の処置室で心エコーや頸部エコー、採血、レントゲンの撮影等をさせていただきました。2年目になってからこのような手技をやる機会があまりなかったため、久々の手技に最初は不安もありましたが、先生方が丁寧に教えてくださったので、だんだんとできるようになれたと思います。訪問診療では患者さんの状態確認や採血、褥瘡の処置等、その患者さんに沿った診療を行いました。7月であったため、暑い日も多く、また、患者さんの中にはクーラーをつけていない家もあり、熱中症の方が多くいました。普段の病院での外来と比較して、患者さんの生活環境がはっきりとわかるため、患者さんの困っていることやその人の人柄を感じやすく、とても親身に接しやすくやりがいがあるなと思いました。

毎日研修が終わった後は自転車を走らせ、そよかぜの周りを散歩していました。一番困ったことは蜘蛛の巣がたくさんあり、一度掃除してもすぐにまた大きい蜘蛛の巣ができてしまうことでした。前は蜘蛛の巣を触ることもできなかったですが、今は手袋をつけて普通に掃除できるようになりました。それに慣れてからは元々海が大好きで自然が好きな方であったので、この緑に囲まれて穏やかな町も自然と好きになっている自分がいました。

最後になりましたが、この一ヶ月間お世話になった先生方をはじめ、看護師及び理学療法士の方々、スタッフの皆さま、暖かく迎えてくださり、熱心にご指導いただきありがとうございました。また、岡本家の皆さま、毎日ご飯を作っていてありがとうございました。美味しかったです。今回の研修で学んだことを生かしてこれからも皆さんのように患者さんに寄り添えるような医師になれるよう日々精進していきたいと思います。